

テーマ：地域の文化を考える

関連の深いコース：人間文化コース

1. このテーマを学ぶために

1990年代以降、「ココロの豊かさ重視」「地方の時代」という風潮の中、文化政策やアートマネジメントが人々の文化環境を考える新たな分野として、地方自治体や関連学会などで注目を集めてきました。研究会「地域の文化を考える」は、現代日本のこうした流れを受けて開設しました。

学問としてこのテーマを学ぶにあたっては、まず内容としての文化・芸術に関心をもつことが重要ですが、市民（＝文化・芸術の消費者であり創造者）と地域（＝文化・芸術に関わる活動を可能にする場）の関係としくみを理解することが不可欠となってきます。

内容としての文化・芸術に親しむ基礎をつくるためには、とくに「場」の役割の大きい芸術として、演劇・美術などの科目の履修を薦めます。学部講義科目には、「比較演劇論Ⅰ・Ⅱ」・「日本美術史論」・「西洋美術史論」などがあります。また、フィールドスタディの「演劇ワークショップシリーズ」は、身体表現の基礎やコミュニケーションスキルを体験学習する場として効果的ですし、「富山県の文化と自然を学ぶ」や「秩父の文化と風土を学ぶ」などのフィールドスタディでは、地域固有の文化・芸術活動を考察します。もちろん、そうした学部専門科目を学ぶ前提として、市ヶ谷基礎科目の文学・芸術・歴史関連科目の履修が望ましいことは言うまでもありません。

地域の文化政策という文化・芸術活動を支える制度を考えるためには、地域社会のしくみを理解するために幅広く次のような科目を学ぶことも有効です。たとえば、地方自治の基礎を学ぶ「地方自治論」は、文化政策に特化した行政を考えるバックグラウンドとなります。また、文化・芸術活動といえども、お金を払って鑑賞する人がいなければ成り立たない以上、消費者や企業の行動、市場の原理などを学ぶ「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」やコミュニティ構築を視野においた「地域経済論Ⅰ・Ⅱ」などが地域の文化経済学の理解につながります。さらに、地域開発・まちづくりを系統的に学べる「地域形成論」や、近年芸術の分野でも進展がめざましいNPO法人について学ぶ「NPO・ボランティア論」、インタビューやアンケート調査など社会調査の方法を学ぶ「フィールド調査論」などはもちろんのこと、「現代社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で現代社会が抱える諸テーマを包括的に学ぶことや、「都市環境論Ⅰ・Ⅱ」で都市づくりの理論を学ぶことも、文化・芸術と「場」の関わりについて理解を深めることになるでしょう。

パノラマ的に文化・芸術と「場」の関わりを学ぶには、研究会「地域の文化を考える」の他、学部講義科目「環境表象論Ⅰ・Ⅱ」やフィールドスタディ「富山県の文化と自然を学ぶ」や「秩父の文化と風土を学ぶ」を薦めます。地域における文化・芸術活動の現在と展望を体系的に考えてみませんか？

2. テーマに関連した推奨科目

研究会「地域の文化を考える」、「比較演劇論Ⅰ・Ⅱ」、「日本美術史論」、「西洋美術史論」、フィールドスタディ「演劇ワークショップシリーズ」・「富山県の文化と自然を学ぶ」・「秩父の文化と風土を学ぶ」、市ヶ谷基礎科目の文学・芸術・歴史関連科目、「地方自治論」、「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域経済論Ⅰ・Ⅱ」、「地域形成論」、「NPO・ボランティア論」、「フィールド調査論」、「現代社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「都市環境論Ⅰ・Ⅱ」、「環境表象論Ⅰ・Ⅱ」